

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-80

学校名・団体名	寝屋川市立石津小学校
HPアドレス	http://www2.city.neyagawa.osaka.jp/school/e/ishizu/
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	道徳科をみすえた道徳教育の指導の充実と改善
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校が、北河内地区のパイロット校としての役割を果たし、牽引推進していく。そして、小学校道徳教育研究会だけでなく、中学校道徳教育研究会を巻き込んだの大会を実施する。大会までに、各月1回程度の研修会を実施し、授業研究に取り組む。授業研究会においては、9年間で育てる道徳教育という視点で取り組む。これにより北河内地区の道徳教育はより推進され、結果として生徒児童の心力向上につながる。</p>	

1.実施計画に至るまでの経緯 ～第69回大阪府小学校道徳教育研究大会北河内大会の開催～

大阪府小学校道徳教育研究会では秋と冬の2回研究大会を実施している。北河内地区においては、平成24年度に秋の大会を開催し今年度は冬の大会を開催することになった。

石津小学校においては、平成21年度より全教職員が「めざす子ども像」を共有した上で道徳の時間のとらえを確認し読み物資料を活用した授業研究に取り組んできた。本校ではオリジナルパッケージ研修という形で、すべての研修は、研究仮説を立て、授業研究を実施し、成果を検証し、その研修の意味と価値を見極め次年度への変革につなげてきた。特に道徳教育においては招聘した講師による示範授業、校内職員による模擬授業、初任者による授業研究会をとおして、資料の読み方、指導案の作成方法、価値の自覚、展開後段の取り扱いなど研修を深化させている。また、昨年度より「道徳科」を見据えて、道徳の全体計画、年間計画、別葉を作成し、その枠組みの中から課題を明確化し、「わたしたちの道徳」を活用した授業研究そしてそれに伴う評価の研究に取り組んでいる。本校は北河内7市の道徳教育におけるパイロット校としての役割を果たし、研修には校内を超えて本市だけでなく7市から多くの教員が参加する研究会を展開している。

今回の研究大会の会場は、石津小学校からこの研究をさらに広げ、その成果を北河内地区全体のものとするために枚方市立高陵小学校に設定した。より多くの教員が切磋琢磨して授業提案をするために高陵小学校6クラス中、1クラスは高陵小学校の教員でそして残り5クラスは北河内地区5市の教員が実施、さらに枚方市近隣3小学校からは(殿一・中宮北・香里)児童を引率しての授業提案を行った。

また、「私たちの道徳」に資料をしぼり、さらに多様で多角的な指導を意識し、「道徳科」に向けての授業研究を積みながら提案性のある授業を公開した。そして、そのために、研究大会に向けて研修会を重ね、指導の充実を図るために大会は枚方市ではあるが、研修会の拠点校は石津小学校が担った。このことは、市町村をこえ道徳教育の充実が図られたと同時に本校の今、行っている道徳教育の工夫改善にもつながった。また、中核拠点校としての使命を再認識する機会ともなった。

2. 活動内容

- (1) 対象 180名 (高陵小学校児童・大会会場校) かかわったすべての学校の児童
- (2) 道徳
- (3) ねらい

本校が、北河内地区のパイロット校としての役割を果たし、牽引推進していく。そして、小学校道徳教育研究会だけでなく、中学校道徳教育研究会を巻き込んだの大会を実施する。大会までに、各月1回程度の

研修会を実施し、授業研究に取り組む。授業研究会においては、9年間で育てる道徳教育という視点で取り組む。これにより北河内地区の道徳教育はより推進され、結果として生徒児童の心力向上につながる。

(4) 活動の特色

①「読み物資料」を活用し、資料分析を重点化(言語活動の充実を意識する)

②石津小学校オリジナルパッケージプランに基づいた研修実施

- ・研修仮説の設定(研究の方向性の共通理解、児童の把握、アンケート、学力テスト)
- ・授業研究(仮説を指導案に反映、実践的研究の試行(グループ実践、課題の明確化))
- ・成果(実践の評価検証、データ収集方法の開発)
- ・意味と価値(学校教育目標の愚具現化、発達の課題の共有と次年度への改善)

以上のPDCAサイクルで研究を実施。

また、この研究が個人の研究→学年共同研究→学校研究→北河内地区に広がり契機となった。

③月1回程度の道徳教育関係の講師を招聘し授業研究会を実施。本校だけでなく、北河内地区全体の研究会とした。研究会の内容としては、総論から実践的な内容とし、常に授業公開をして価値の自覚を児童生徒が深めることのできる研究会を実施。研究会のメンバー、本校の教員が、道徳的価値の自覚を深めるための発問を考え相互に研究を推進した。さらに、本校中学校区で計画をしていた校区道徳教育地域授業公開においても、北河内地区全体に広げ、多くの教員の学ぶ場とし、今後課題となっていく「道徳教育と特別活動」の視点での研修会を寝屋川市教育委員会と共同開催した。

④1月22日にむけて研修の取り組みを寝屋川市及び北河内で共有するための冊子を作成した。

特に研究授業後の振り返りを重視し、さらに次期学習指導要領解説を意識した授業指導案を作成。

(5) 活動の時期と内容

活動時期：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

【内容】

- ①6月10日龍谷大学 教授 牧崎 幸夫先生招聘 「その思いを受け継いで」(わたしたちの道徳)
門真市立砂子小学校 山中教諭
- ②6月17日関西外国語大学 教授 小寺 正一先生招聘 「虫は大好き・アンリ・ファーブル」
寝屋川市立啓明小学校 鮫島教諭
- ③7月23日 寝屋川市立石津小学校校長 森本 朋美 大会授業者向け指導案づくり研修
- ④8月6日 常磐会学園 教授 佐谷 力先生 招聘 「児童・生徒の理解と実態の把握」
- ⑤8月19日 四天王寺大学 准教授 杉中 康平先生招聘 大会発表資料分析①「その思いを受け継いで」
- ⑥10月19日 國學院大學 教授 杉田 洋先生招聘 道徳教育を効果的に展開するための特別活動
- ⑦11月6日 四天王寺大学 准教授 杉中 康平先生招聘 大会発表資料分析②「はしのうえのおおかみ」
- ⑧10月下旬から12月上旬 研究会取り組み内容取りまとめ→冊子づくり
- ⑨12月28日 畿央大学 教授 島 恒生先生招聘 役割演技と道徳の授業
- ⑩大会当日(1月22日) 四天王寺大学 准教授 杉中 康平先生招聘(指導助言者)
兵庫教育大学 教授 谷田 増幸先生招聘(指導助言者)
- ⑪1月29日 四天王寺大学 准教授 杉中 康平先生招聘 大会の成果と課題について

(6) 成果と課題

～不易と流行を見極めて～

①一部改正 小学校学習指導要領

本年度は平成 27 年 3 月 27 日に一部改正された学習指導要領を改正に係る着眼点を意識しながら、新旧を対応させながら研修を実施した。今、またこれから求められていくものは何なのかをしっかりと把握しながら授業づくりをしていくことに今後につながる大きな意味を見いだしたと考える。そして、「考え議論する道徳」とはいったいどのようなものなのかを考え、授業を提案する機会になった。参加した若い教員が切磋琢磨して授業を練り上げていくことは平成 30 年完全実施に向けての北河内地区の布石になったことは間違いない。

②考え議論する道徳

中教審答申で挙げられている課題としては以下のとおりである。

①道徳教育の要である道徳の時間が、その特質を生かした指導が行われていない。

各教科等にくらべて軽視されがち

②発達の段階が上がるにつれて児童生徒の受け止めが良くない

③読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われていることもある

④発達段階などを十分に踏まえ、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業が行われていることもある。

これらの課題を乗り越えていくために、さまざまな授業提案を行った。例えば、役割演技、複数時間の取りいでの授業等である。これらについては、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の考えについての考えを深めていくこと」とは何かを熟考し、単に表面上の文言に振り回されることなく、分析していくことの重要性が明らかになった。

③評価を意識した取り組み

教科化に向けて、児童の個人内評価を残すという視点から、本年度、授業の終末に道徳ノートを取り入れた。これによって児童の道徳的価値の理解を図る、一つの材料となったばかりでなく、家庭からの返信もあり学校と家庭のより一層の連携にもつながった。今後は、どのような評価ができるのかを研究していく必要がある。

④広域での研究会

中核校を決めて、オープンマインドで研修を進めていくことは、今後、各校の教育を担う若手教員の研鑽の場になったばかりでなく、人つながりの場にもなったことは、来年度以降の北河内での道徳教育推進の大きな力となっていくと考える。